

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.10.25 No.119 連絡先 FAX 042-555-1911



10.15 横田基地もいらない! 市民交流集会

講演 伊波洋一さん(前宜野湾市長)「日米同盟の深化と辺野古新基地建設を許さない沖縄のたたかい」



「伊波さんのお話、とても良かった」と多くの方から感想

10月15日、「横田基地もいらない! 市民交流集会」が開催されました。講演は、普天間基地のある宜野湾市の前市長・伊波洋一さんです。市長時代、アメリカに何度も行って、アメリカに「普天間基地は世界一危険な基地」と認めさせました。普天間基地は、第2次世界大戦中、米軍が住民を捕虜収容所に入れて、必要な土地を確保して建設した米軍基地です。終戦後、返さなかったのは国際法違反です。普天間基地は、無条件返還しかありません。



「在日米軍基地の75%が沖縄に集中しているの!」「日中貿易は日米貿易より多額。中国を敵視してどうする。日中平和条約が両国の利益につながる」「無法な米軍機の飛行は日本だけ?」「日米地位協定の不当さ。密約の壁。いまだ日本はアメリカの支配下にある!」等々感想が。

左写真: 砂川事件の「伊達判決を生かす会」の方々も会場に。



元気いっぱいエイサー

広い舞台を所狭しと太鼓などを打ち鳴らし踊る和光青年会のエイサーに拍手喝采でした。30人を超える出演者でした。

連帯の発言は厚木、池子、麻布から

第4次厚木爆音訴訟団団長・藤田栄治さん、池子米軍住宅建設反対運動・中森圭子さん、麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会・板倉博さんが各地のたたかいを報告しました。

伊波さん先頭に横田基地沿いをデモ行進

集会後、伊波さんや発言者を先頭に、横田基地撤去、普天間基地撤去をアピールしながらデモ行進しました。



横田基地を見て話聞いて「目からうろこ」と参加者

10月15日、集会実行委員のスタッフの集合時間は9時。雨がどしゃぶりでした。しかし、「横田基地めぐり」Aコース10時出発の時には雨もやみ、ホッとしました。マイクロバスで広い横田基地をめぐり、ていねいな説明を聞いて、「目からウロコね」との参加者の声もあり、大盛況、大好評でした。



午前中は、沖縄のたたかいのDVDも上映され好評でした。

横田基地第5ゲートの本格的な運用開始は来年3月

(No. 119 の裏面)

第5ゲートについては、自衛隊の看板はどうなるのか、など注目してきましたが、現在も工事中です。この件で10月20日、防衛省（北関東防衛局）から福生市に情報提供がありました。

- (1) 台風、天候不良などの影響で、工事の完了時期は11月上旬を予定している。
 - (2) ゲートの運用開始時期は、護衛所への資材搬入・試験期間等を経て11月中旬の見込み。
 - (3) 第5ゲートは航空自衛隊も共同使用する。本格的な運用開始時期は、来年3月を予定。
- 要約すると以上ですが、「来年3月の航空自衛隊の移転完了後、本格的な運用開始」です。

夏のような陽射しの中 第31回 横田基地の撤去を求める座り込み行動

10・15横田基地集会の翌日の10月16日は、横田基地の撤去を求める座り込み行動がありました。毎月第3日曜日行動です。

国道16号線沿いのフレンドシップパークで、午後1時30分から3時30分まで。参加者の発言で2時間は、あっという間です。

今回の座り込みには所沢平和委員会から5名が参加。「これからも埼玉から参加したい」と力強く発言してくれました。



米政府 普天間基地の移設先埋め立て申請を要請 日本政府はどうする！？



先月の日米首脳会談でオバマ大統領は、来年6月を期限に「具体的な進展」を見せることを求めています。「具体的な進展とは、日本政府が沖縄県の仲井真知事に移設先沿岸部の埋め立て許可を申請すること」です。埋め立て工事を行うためには仲井真知事の許可が必要です。来年6月までに知事から埋め立ての了承を得るために、10月24日、パネッタ国防長官は訪日しました。

（「自然は予測できない 上記の写真、海岸が壊れ始めています。原因は米軍のフェンスだ。」とブログ「宝の海」で大西照雄氏は訴えています。自然破壊の辺野古浜の埋め立て反対です。写真提供：大西照雄氏）

無理な要求をすれば「沖縄県民のすべてを反対の立場に回すことになる」

パネッタ国防長官の訪日を前に野田佳彦首相は3閣僚を次々に沖縄入りさせました。

まず11日に川端達夫総務相兼沖縄北方担当が沖縄入りし、使途の自由度が高い一括交付金創設など沖縄振興の「アメ」を約束。次いで16日に一川保夫防衛相が入り、環境アセスの評価書の年内提出の「ムチ」を出す。最後に玄葉氏が反応を探る、算段だったようです。

19日、玄葉光一郎外相は沖縄県庁で仲井真弘多知事と会談。「安全保障環境が厳しくなっており日米合意に沿って進展させたい」と述べ、名護市辺野古への移設に理解を求めました。

しかし仲井真氏は「普天間返還のため、日本のほかの地域に移すことを進めてほしい」と県外移設を重ねて求めました。玄葉氏は辺野古に関する環境影響評価（アセスメント）の評価書を年内提出する方針も伝えるつもりでしたが切り出せず「沖縄の地理的な優位性は簡単に代替できない。心苦しいがお願いしたい」と頭を下げるのが精いっぱいだったそうです。首相の思惑はあまりに見え透いており、逆に地元の態度を硬化させた、と地元紙は報じています。

沖縄県名護市の稲嶺進市長は、NHKの取材に対して、「そもそもアメリカが要求できる立場にあるとは思わないが、今の沖縄は辺野古への移設を受け入れられる状況になく、アメリカ政府の焦りの表れではないか。知事が埋め立てを許可するとは思えないし、今そのような要求をすれば、沖縄県民のすべてを反対の立場に回すことになる」と述べました。